

P・I・A シート

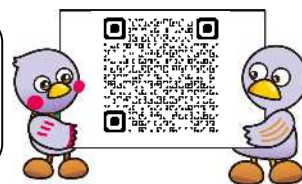
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校 外国語 編 ① 概要

校種・学年	小学校・第5学年	教科等	外国語
単元名	Where do you want to go?		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行きたい場所やその理由を伝え合う表現を言ったり、聞いたりすることができる。また、行きたい場所やその理由を表す語句や文を読み、書き写すことができる。〈知識及び技能〉 ・ 自分が行きたい場所を、理由を入れて伝え合う。〈思考力、判断力、表現力等〉 ・ 他者に配慮しながら、自分から進んで行きたい場所やその理由について伝え合おうとする。〈学びに向かう力、人間性等〉 		
本時のねらい	行きたい場所やその理由を伝える表現を用いて、行ってみたい旅行プランを分かりやすく紹介することができる。		
本時の評価規準	<p>【話すこと（発表）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が行ってみたい旅行プランを同じ学年の友達やALTに理解してもらうために、自分が行きたい国やその理由について伝えている。 <p>【思考・判断・表現】〈行動観察〉〈映像分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が行ってみたい旅行プランを同じ学年の友達やALTに理解してもらうために、自分が行きたい国やその理由について伝えようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】〈行動観察〉〈映像分析〉</p>		

事例の概要(見どころ)

- ・ 「5年生全員で行くオンライン旅行のプランを決めるために、友達やALTにオンライン旅行のプランについて紹介しよう」という目的・場面・状況を設定し、「ほんもの」にこだわり、相手意識をもたせた授業を展開しています。
- ・ 一人一台端末を活用して紹介動画を作成し、中間指導で自分の動画を見直したり、友達の活動をアドバイスすることで、「もっと上手に伝えたい」「分かりやすく伝えたい」という気持ちを高める手立てを意図的に設定しています。

発行：令和5年9月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



その他のP・I・Aシートはこちら ↑

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 小学校 外国語 編 ② 展開

(1) 目標 行きたい場所やその理由を伝える表現を用いて、行ってみたい旅行プランを分かりやすく紹介することができる。

準備 PC、大型モニタ、フラッシュカード、ICT 端末

(2) 展開 (6/7)

過程	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
導 入 5 分	○Greetings ・挨拶をする。 ○About Today ・天気、曜日、日付等を答える。 ○Small Talk ・テーマ（好きなこと・もの）に合わせて、ペア児童と会話する。	・全体だけでなく個別にも挨拶を行うようにする。 Let's start today's English class. Good afternoon, class. How are you today? I'm good. ・全体に質問する。 How is the weather? What day is it today? What's the date today? ・会話の見通し（趣味、休日に行っている習い事、遊び等）をもたせてから活動させる。（1分間） ・起立させて行わせ、活動が終わったペアから座らせる。 ・意図的に指名をし、発表させ、良かったところを共有してからもう1度活動させる。	全体指導後に、ペアを組むことで、児童の発話量を増やし、挨拶等の基本表現に慣れ親しませています。
	○Oral Introduction ・前時に撮影した児童の動画（抽出児童2名）を見る。 ・HRTの問いかけに答える。	・どんな発表をしているか考えさせる。 ・聞く視点を与える。（どんなことを話しているか。） ・何人かの児童に「What can you hear?」と尋ね、動画の内容や良かったところをまとめながら、本時のMissionにつなげる。 端末を活用して、録画することで、自分で見直すことができます。また、良い例として、学級内に共有することで、他の児童も自らの言語活動を振り返ることができています。	大型モニタ 

【授業改善の視点】Small Talkを行う主な目的
 ①既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること。
 ②対話を続けるための基本的な表現の定着を図ること。

【授業改善の視点】Small Talkにおける中間指導
 ①既習表現を想起できるようにする。児童が前時までに学習した言語材料で表現できなかったことは、学級全体で共有しながら、想起させる。
 ②自身の対話を振り返るようにする。友達のやり取りや、T-Tインタラクションから、「2回目に活かせる視点」をもたせる。

話すことの言語活動の際、立たせて活動することで、「互いに目を合わせる」「ジェスチャー等を使って伝えようとする」など、**非言語的コミュニケーション**を用いようとする態度を養っています。

展開
35分

【授業改善の視点】

教科等横断的な視点

地理や地域の知識など、社会科等で得た知識と結び付けたり、地図帳などを用いながら活動を行う等の工夫をしたりすることで、児童の知的好奇心を刺激する。

・ 前回の授業では、行きたい場所や理由をスムーズに伝えることはできていたが、「もっと分かりやすく伝える工夫はないか」ということに気付かせ、前回の動画をブラッシュアップさせることが本時のゴールであることを意識させる。

「オンライン旅行のプランを決める」ことを目標とし、単元や授業の中で、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定し、児童が学習の見通しを立てたり振り返ったりする場면을意図的に設定**することで、「主体的な学び」を推進することができています。

○Today's Mission
・ Mission をノートに書く。

・ ALT が本時のミッションについて説明する。

黒板
ノート

自分が行きたいオンライン旅行のプランを分かりやすく紹介しよう。

パフォーマンス課題

「5年生全員で行くオンライン旅行のプランを決めるために、友達や ALT にオンライン旅行のプランについて紹介しよう。」

児童にとって身近で具体的な場面設定の中で言語活動を行うことで、「友達・ALT (誰に)」、「オンライン旅行計画を決める (何のために)」という「相手意識」や「目的意識」をもって、質問したり答えたり発表したりする必然性が生まれています。

○Activity

① 分かりやすく工夫できるところはなにかを考えてから動画を撮影する。

・ どんな発表なら「その場所に行ってみたい」と思ってもらえるか考えるよう、個別で声かけをする。
・ 考えが思いつかない児童には、その場所で他にどんなことができるかを伝えるとよいことを助言する。
・ 内容ではなく、伝え方を工夫している児童も認める。(スピード、ジェスチャー、間、問いかけなど)

ICT 端末

② 終わった児童は、共有ドライブに提出された友達の動画を見る。

・ キーセンテンス以外の表現を使いたいときは、教科書や ICT 端末で調べたり、グループの友達と相談したりしても良いことを伝える。
・ 友達がどんなところを工夫しているか見つける。

ICT 端末



【授業改善の視点】言語活動における中間指導
言語活動を行った後で、子どもたちの発話内容や表現について取り上げ、フィードバックや練習を行う。また、自分の課題に合わせて、デジタル教科書の動画や、友達が撮影した(他のクラス)動画を視聴し、自身の言語活動を確かめたり、内容を見直したりする。

「指導の個別化」「学習の個性化」

③ 中間指導

・ 課題に適した動画を撮影した児童の発表を紹介する。
・ 「行ってみたいと思ってももらえる発表にするための工夫」について伝える。



・ 以下のことについて全体指導をする。

行ってみたいと思ってももらえる発表にするための工夫

- ① 文の量 (I want to ~.) を増やす。
- ② どんな様子かを伝える。(It's ○○.)
- ③ 何時に何をするか伝える。(at ○:○○.)
- ④ 自分の気持ちを伝える。(I like ○○.)
- ⑤ 相手にも問いかける。(Do you like ○○?)

大型モニター
黒板

・ ジェスチャー、問いかけ、繰り返し、スピード
・ 活動に関わるルーブリックによる評価基準(下)を共有し、児童自身がそれぞれの目標をもって主体的に取り組めるようにする。

<p>④ 中間指導を生かし、再度、分かりやすく工夫できるところはないか考えてから動画を撮影する。</p>	<p>・全児童が課題に適した動画を撮影できるよう個別指導を行う。</p> <p>◎自分が行ってみたい旅行プランを同じ学年の友達やALTに理解してもらうために、自分が行きたい国やその理由について伝えている。</p> <p>【思・判・表】・発・①<行動観察><映像分析></p>	<p>ICT 端末</p>
<p>ルーブリック評価（思・判・表）</p> <p>S：Aに加えて、より効果的に伝わるように構成を考え、発表をしている。</p> <p>A：その様子や時刻を付け加えるなどし、発表をしている。</p> <p>B：前回よりも分量を増やし、発表をしている。</p>		
<p><「努力を要する」状況（C）への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の友達の考えを参考するように助言する。 ・個別にリピート練習を行い、表現を定着させてから撮影させる。 	<p>◎自分が行ってみたい旅行プランを同じ学年の友達やALTに理解してもらうために、自分が行きたい国やその理由について伝えようとしている。</p> <p>【主】・発・①<行動観察><映像分析></p>	<p>「ルーブリック評価」を児童と共有することで、児童はルーブリックを見ながら、自らの目指す姿を明確にするとともに、学習状況を把握し、さらに何をすべきかを考えて学習を進めることができています。</p>
<p>ルーブリック評価（主）</p> <p>S：Aに加えて、より伝えたい文を反復したり、抑揚を付けたりして伝えようとしている。</p> <p>A：Bに加えて、相手への問いかけをして伝えようとしている。</p> <p>B：簡単なジェスチャーをして相手に伝えようとしている。</p>		
<p><「努力を要する」状況（C）への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話しながらでなく、1文話した後にカメラを見たりジェスチャーをしたりしても良いことを伝える。 		
		<p>ICT 端末機を必要に応じて使い、児童同士でアドバイスし合ったり、先生が個別指導で、困っている子どもの支援を行ったりと、子どもたちは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを往還しながら、友達やALTに理解してもらうために、発表内容と英語をブラッシュアップすることができています。</p>
<p>まとめ5分</p> <p>○Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 ・本時の活動の振り返りをノートに記入する。 <p>○Greetings</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Good-bye Chants をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいに照らしてまとめをする。 ・ 本時の課題（自分が行きたいオンライン旅行のプランを分かりやすく紹介しよう）に対して、「気付いたこと・うまかった友達とその理由・次頑張りたいこと」の視点のうち、いくつか選んで記入させる。 ・ 次時の活動の見通しをもたせ、本時と次時をつなげる。 	<p>ノート</p> <p>【授業改善の視点】 振り返りの視点</p> <p>授業中の観察に加え、授業や単元の最後に行う振り返りを併用することで、児童が「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、①粘り強い取組を行おうとする側面や、②自らの学習を調整しようとする側面を、より一層深く見取っていくことが大切である。</p>